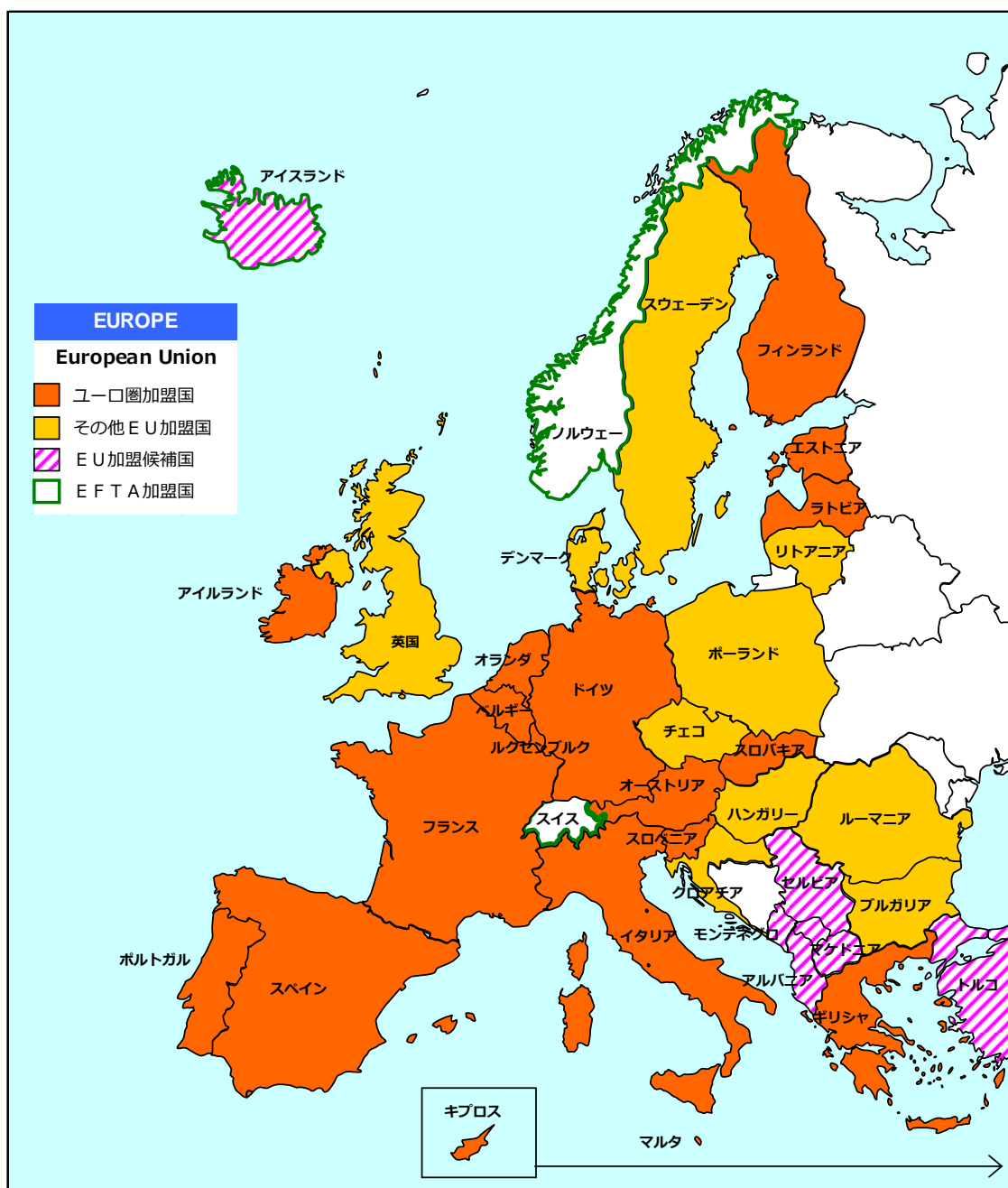


2014年11月25日 全13頁

# 欧州経済アップデート (2014.11)

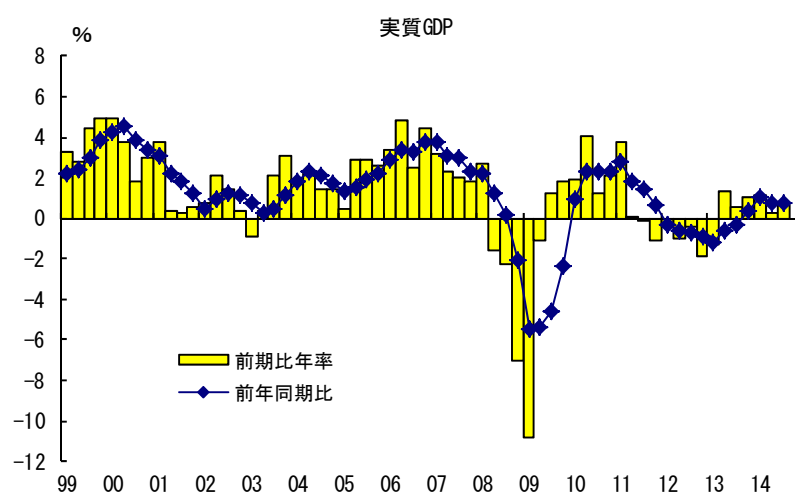
経済調査部  
シニアエコノミスト 山崎 加津子



出所：三角形「白地図専門店」サイトより大和総研作成

## ユーロ圏 GDP

- 14年Q3の成長率（速報値）は前期比+0.2%で、14年Q2の同+0.1%から若干加速した。これで、ごく小幅ながら前期比プラス成長は6四半期連続となる
- 需要項目別の内訳は12月5日に発表される予定だが、個人消費と純輸出が牽引役となった一方、固定資本形成はマイナス寄与になったと推測される
- なお、総固定資本形成の内訳のデータは11月24日現在、ESA2010基準で発表されていない



名目GDPに占める割合（%）

	2013
民間消費	56.0
政府消費	21.1
総固定資本形成	19.6
設備投資	#N/A
住宅投資	#N/A
その他建設投資	#N/A
輸出	43.7
輸入	40.2

ユーロ圏の需要項目別GDP成長率（前期比：%）

	12Q1	12Q2	12Q3	12Q4	13Q1	13Q2	13Q3	13Q4	14Q1	14Q2	14Q3
実質GDP	-0.1	-0.3	-0.1	-0.5	-0.3	0.3	0.1	0.3	0.3	0.1	0.2
個人消費	-0.2	-0.5	0.0	-0.5	-0.3	0.1	0.3	-0.1	0.2	0.3	-
政府消費	-0.2	0.1	-0.3	0.0	0.3	0.0	0.2	-0.2	0.7	0.2	-
総固定資本形成	-0.9	-1.5	-0.6	-0.7	-2.0	0.5	0.5	0.6	0.3	-0.9	-
設備投資	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	-
住宅投資	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	-
その他建設投資	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	-
輸出	0.9	0.8	1.1	-0.7	-0.1	1.9	0.6	1.1	0.3	1.3	-
輸入	0.3	-0.4	0.2	-0.7	-0.1	1.5	1.4	0.4	0.6	1.3	-

ユーロ圏の需要項目別GDP寄与度（前期比：%）

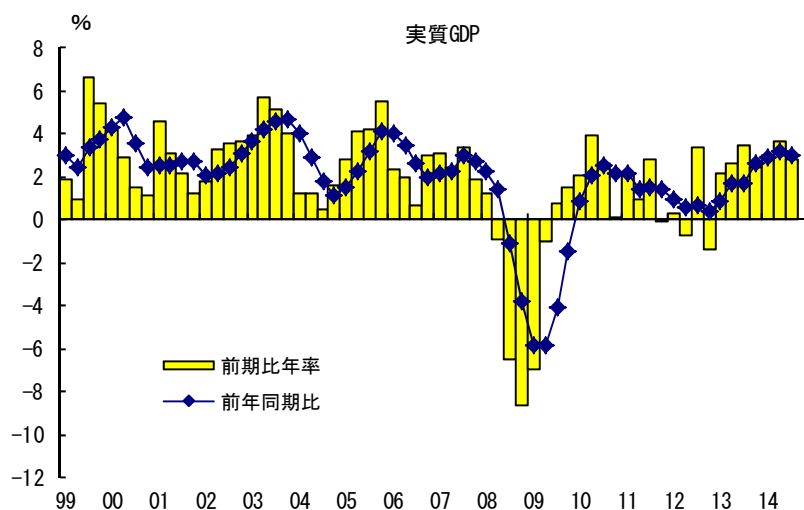
	12Q1	12Q2	12Q3	12Q4	13Q1	13Q2	13Q3	13Q4	14Q1	14Q2	14Q3
実質GDP	-0.11	-0.25	-0.10	-0.47	-0.34	0.32	0.15	0.25	0.29	0.08	0.16
個人消費	-0.14	-0.29	-0.02	-0.30	-0.15	0.07	0.14	-0.03	0.10	0.15	-
政府消費	-0.04	0.02	-0.06	-0.01	0.06	0.01	0.04	-0.04	0.14	0.05	-
総固定資本形成	-0.18	-0.30	-0.12	-0.14	-0.39	0.11	0.10	0.13	0.05	-0.19	-
設備投資	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	-
住宅投資	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	-
その他建設投資	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	#N/A	-
在庫変動	-0.02	-0.19	-0.31	0.01	0.15	-0.08	0.17	-0.13	0.13	0.02	-
輸出	0.36	0.34	0.45	-0.31	-0.03	0.80	0.26	0.46	0.11	0.56	-
輸入	-0.11	0.16	-0.06	0.28	0.03	-0.57	-0.54	-0.15	-0.24	-0.50	-
純輸出	0.25	0.50	0.40	-0.03	0.00	0.23	-0.29	0.32	-0.13	0.06	-

出所：Eurostat、Haver Analytics データより大和総研作成

\* このレポートに掲載しているユーロ圏データに関するおことわり  
ユーロ圏とは、EU加盟国のうち単一通貨ユーロを導入し、金融政策を欧州中央銀行（ECB）に委ねている国々のこと。14年1月からラトビアがユーロの導入を開始し、現在は18か国。このレポートに掲載されているデータは、14年1月以前も18か国ベース（Eurostatが18か国ベースの遡及データを公表）。

## 英国 GDP

- 14年Q3のGDP成長率（速報値）は前期比+0.7%と14年Q2の同+0.9%からは減速した
- 需要項目別の内訳を含む第2次推計は11月26日の発表予定だが、個人消費と民間住宅投資が牽引役となったと推測される
- 一方、ユーロ圏の景気停滞を反映した輸出低迷が継続し、純輸出寄与度は14年Q2に引き続きマイナスだったとみられる



名目GDPに占める割合（%）

	2013
民間消費	64.8
政府消費	20.2
総固定資本形成	16.4
政府部門	2.3
企業部門	10.0
民間住宅投資	2.9
輸出	29.8
輸入	31.7

英国の需要項目別GDP成長率（前期比：%）

	12Q1	12Q2	12Q3	12Q4	13Q1	13Q2	13Q3	13Q4	14Q1	14Q2	14Q3
実質GDP	0.1	-0.2	0.8	-0.3	0.5	0.7	0.9	0.6	0.7	0.9	0.7
個人消費	0.3	0.3	0.1	0.5	0.6	0.3	0.5	0.3	0.7	0.6	-
政府消費	3.5	-2.6	0.6	0.1	-0.2	1.3	0.6	-0.1	-0.3	1.0	-
総固定資本形成	-0.1	-1.6	-0.9	1.1	0.8	0.5	2.8	2.4	2.4	1.3	-
政府部門	7.9	-2.0	-12.9	1.7	-0.2	-1.9	0.1	1.7	6.5	-14.5	-
企業部門	0.2	-0.8	3.1	0.9	0.7	-0.7	3.7	2.7	0.9	3.3	-
民間住宅投資	-2.6	-4.5	-1.2	0.2	0.7	5.8	1.7	0.9	5.9	3.6	-
輸出	-0.1	-0.8	2.0	-1.6	-1.0	5.9	-4.6	0.2	-0.4	-0.4	-
輸入	1.1	0.2	1.6	-0.8	-2.7	3.5	1.5	-1.4	-2.0	-0.3	-

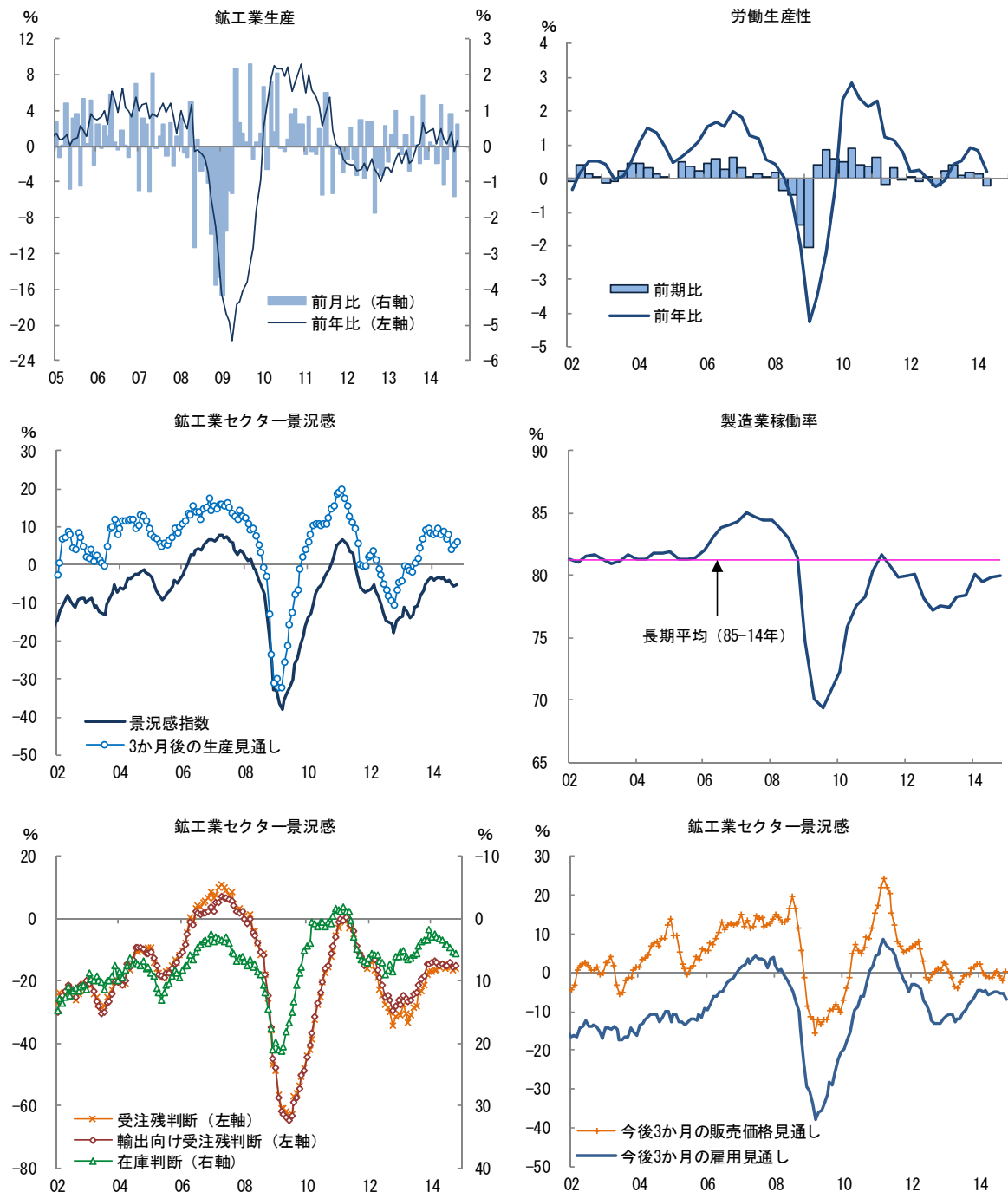
英国の需要項目別GDP寄与度（前期比：%）

	12Q1	12Q2	12Q3	12Q4	13Q1	13Q2	13Q3	13Q4	14Q1	14Q2	14Q3
実質GDP	0.07	-0.18	0.83	-0.34	0.53	0.66	0.85	0.62	0.74	0.91	0.70
個人消費	0.20	0.21	0.09	0.29	0.37	0.21	0.31	0.17	0.43	0.39	-
政府消費	0.74	-0.55	0.13	0.03	-0.05	0.27	0.12	-0.02	-0.06	0.20	-
総固定資本形成	-0.01	-0.26	-0.15	0.17	0.13	0.08	0.45	0.39	0.39	0.21	-
政府部門	0.20	-0.06	-0.35	0.04	-0.01	-0.04	0.00	0.04	0.15	-0.35	-
企業部門	0.01	-0.08	0.30	0.09	0.07	-0.07	0.37	0.27	0.09	0.34	-
民間住宅投資	-0.08	-0.14	-0.04	0.01	0.02	0.17	0.05	0.03	0.18	0.12	-
在庫変動	-0.50	0.72	0.67	-0.58	-0.35	-0.50	2.01	-0.43	-0.59	0.18	-
輸出	-0.02	-0.24	0.62	-0.51	-0.32	1.78	-1.47	0.06	-0.11	-0.13	-
輸入	-0.35	-0.07	-0.53	0.26	0.89	-1.12	-0.51	0.47	0.66	0.09	-
純輸出	-0.37	-0.30	0.09	-0.25	0.57	0.66	-1.98	0.53	0.55	-0.04	-

出所：英国統計局、Haver Analytics データより大和総研作成

## ユーロ圏 生産

- 9月の鉱工業生産は前月比+0.6%と8月の同-1.4%（当初の同-1.8%から上方修正）から反発した。ただし7-9月平均では、4-6月平均比-0.4%と軟調
- 10月の鉱工業セクター景況感は3か月ぶりに前月比改善。構成項目では生産見通しに加えて受注残判断が改善した。このほか、販売価格見通しも3か月ぶりに持ち直した
- 製造業稼働率は14年Q4に小幅上昇したが、1985年以降の長期平均値は引き続き下回ったままである

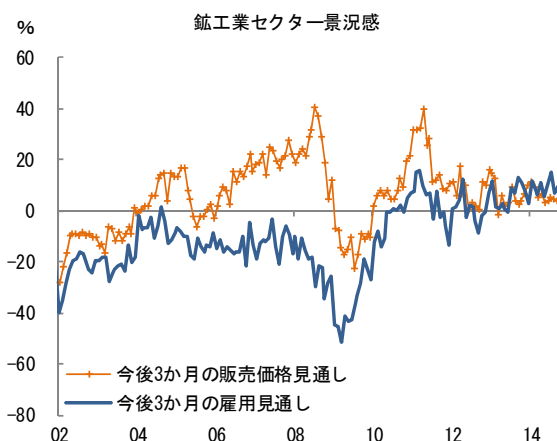
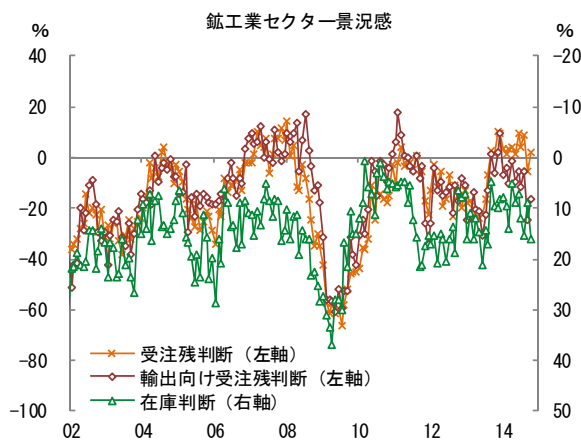
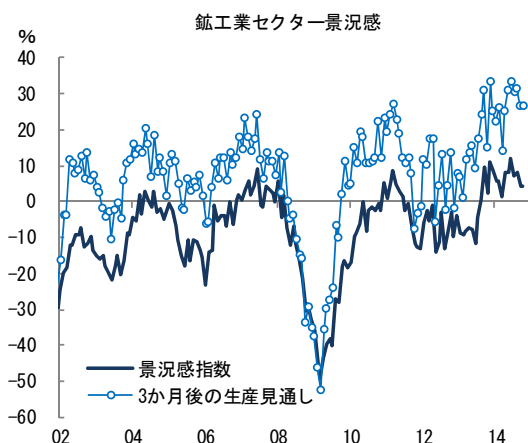
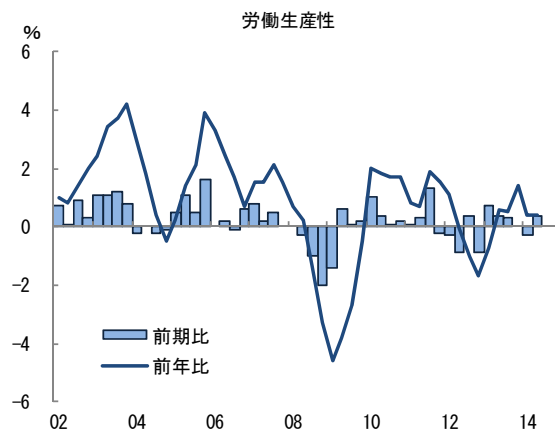
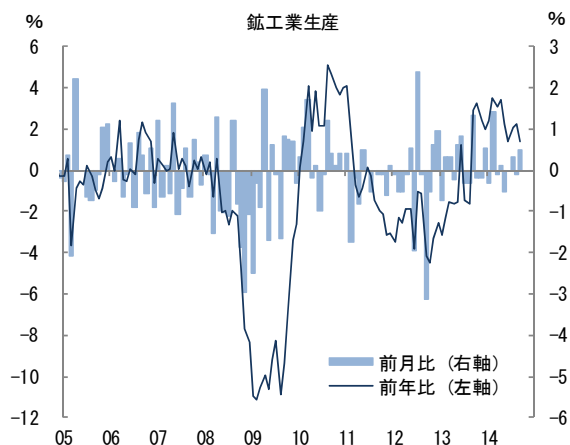


注：鉱工業セクター景況感の在庫判断は逆目盛（数値が小さいほど、景況感としては良好）

出所：Eurostat、ECB、欧州委員会、Haver Analytics データより大和総研作成

## 英国 生産

- 9月の鉱工業生産は前月比+0.5%となり、8月の同-0.1%から反発をみせた。鉱業とエネルギー部門の生産拡大が貢献した
- 10月の鉱工業セクター景況感は前月比横ばい。構成項目のうち、受注残判断が8月の大幅悪化から一転して改善したが、在庫判断は逆に悪化してしまった
- 製造業稼働率は14年Q3の84.4%からQ4は81.7%に急低下し、ほぼ長期平均値となった

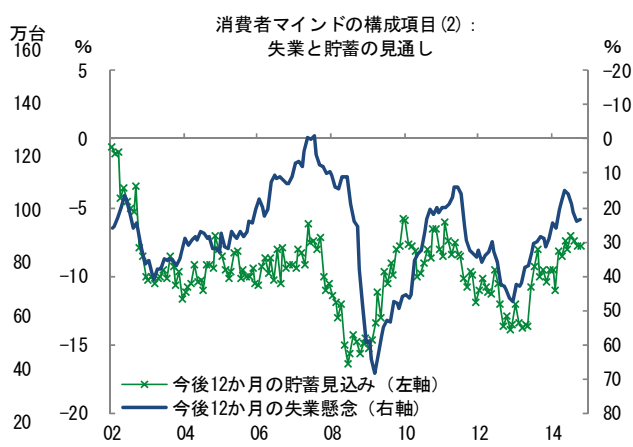
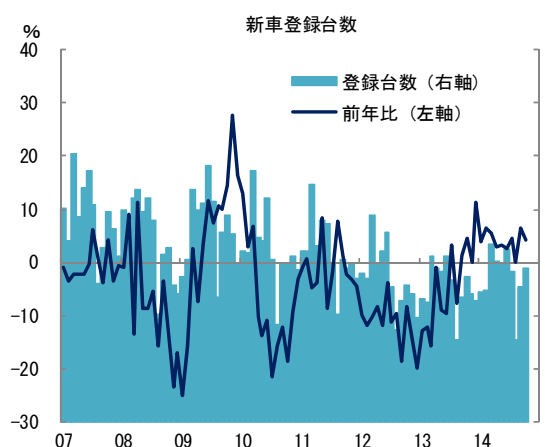
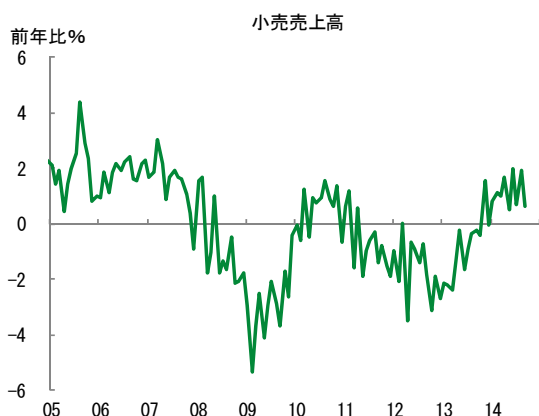
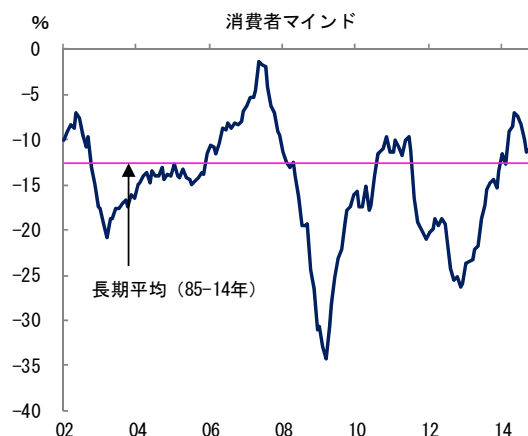
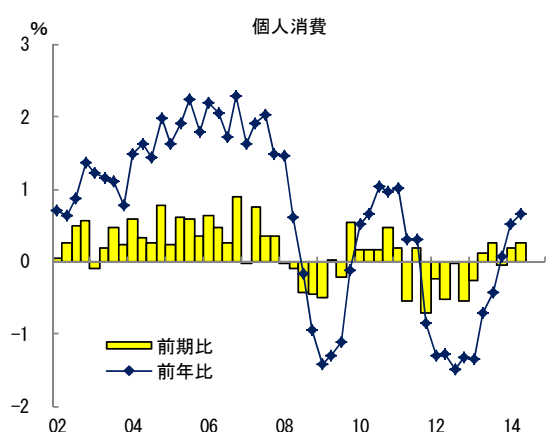


注：鉱工業セクター景況感の在庫判断は逆目盛（数値が小さいほど、景況感としては良好）

出所：英国統計局、Eurostat、欧州委員会、Haver Analytics データより大和総研作成

## ユーロ圏 消費

- 9月の小売売上高は前年比+0.8%に減速と、月ごとのぶれが大きい。ただ、2014年に入ってから的小売売上高は平均して前年比+1.2%とまずまずのペースで伸びている
- 新車登録台数は9月の前年比+6.4%から10月は同+4.4%へやや減速
- 10月の消費者マインドは5か月ぶりに改善。景気見通し、所得見通し、失業懸念がそろって下げ止まった。ところが、11月の消費者マインドの速報値は悪化に転じてしまった

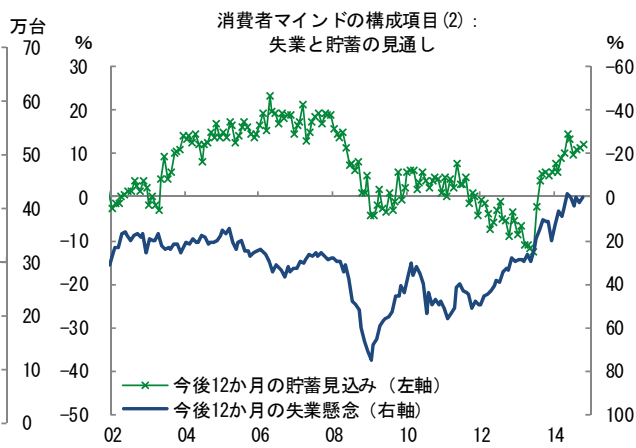
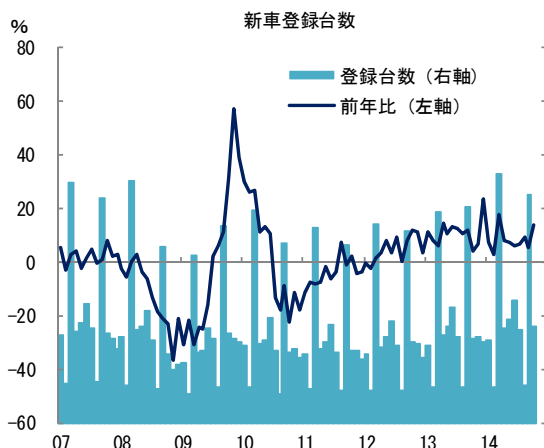
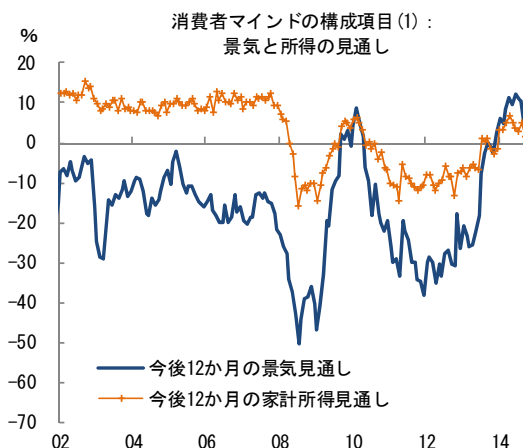
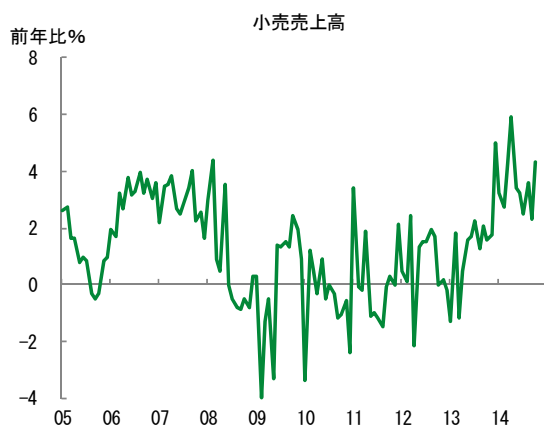
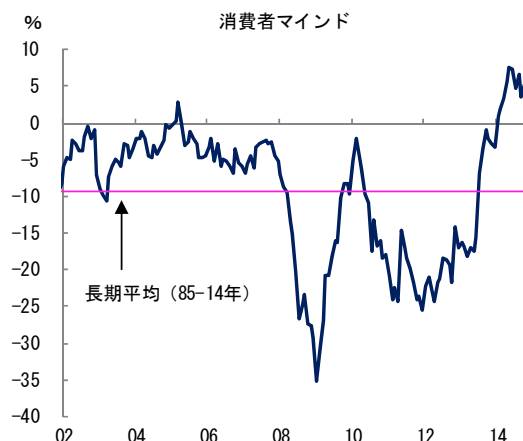


注：消費者マインドの構成項目は「大いに良くなる（増加する）」、「良くなる」、「変わらない」、「悪くなる」、「大いに悪くなる（減少する）」の5つの選択肢から選ばれた回答を加重平均したもの。失業懸念のみ逆目盛（数値が小さいほど、景況感としては良好）

出所：Eurostat、欧州委員会、ACEA、Haver Analytics データより大和総研作成

## 英国 消費

- 10月の小売売上高は前年比+4.3%と9月の同+2.3%から大幅加速。食品を除いた小売売上高の伸び加速が目立つ
- 10月の新車登録台数は前年比+14.2%となる18万台。10月としては2003年以来最多
- 10月の消費者マインドは3か月ぶりに反発。失業懸念が後退し、家計所得見通しが好転

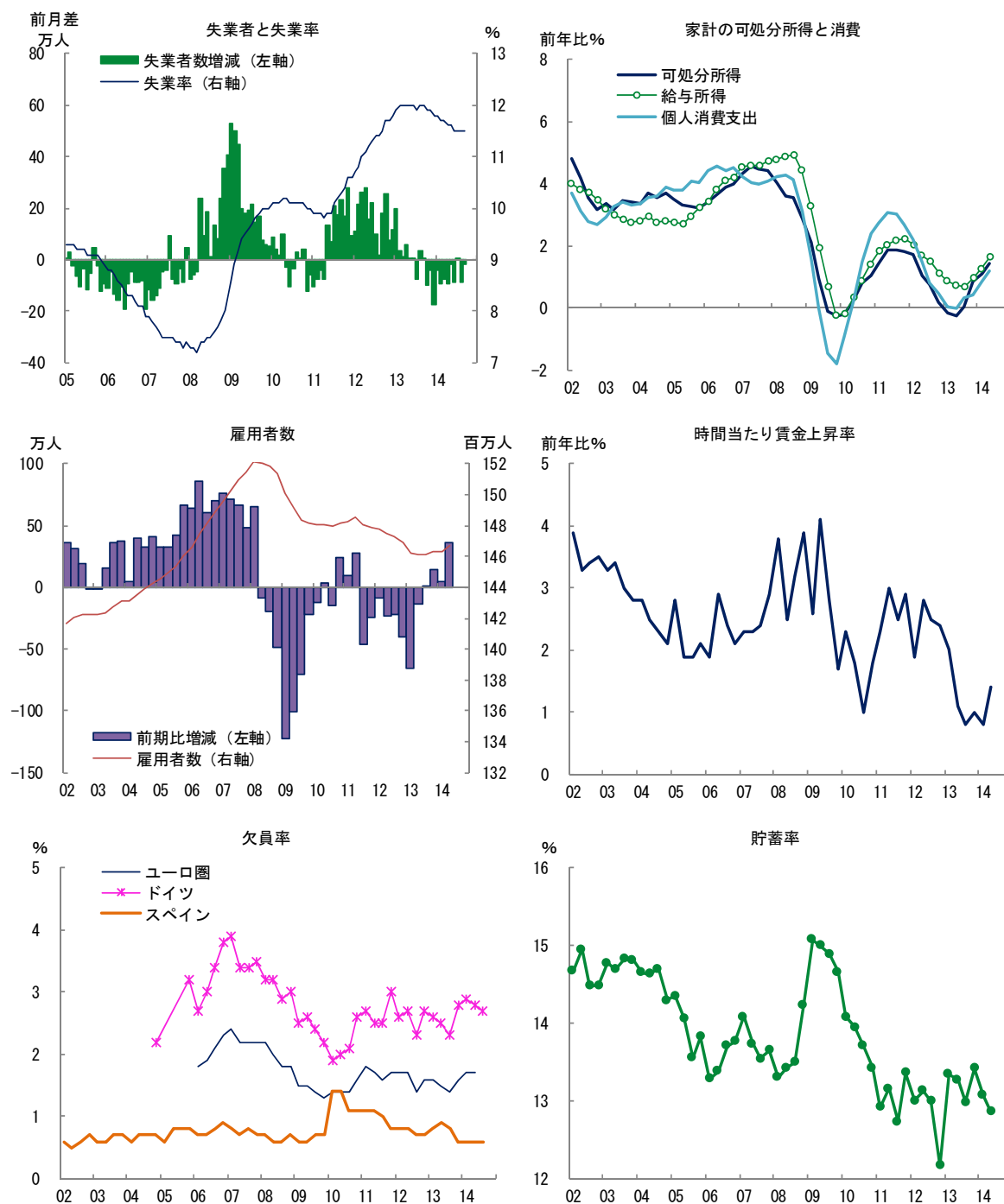


注：消費者マインドの構成項目は「大いに良くなる（増加する）」、「良くなる」、「変わらない」、「悪くなる」、「大いに悪くなる（減少する）」の5つの選択肢から選ばれた回答を加重平均したもの。失業懸念のみ逆目盛（数値が小さいほど、景況感としては良好）

出所：英国統計局、欧州委員会、ACEA、Haver Analytics データより大和総研作成

## ユーロ圏 雇用・所得

- 9月の失業率は4か月連続となる11.5%
- ただ、9月の失業者数は前月比-1.9万人減少と雇用状況の改善は継続している
- 14年Q2の家計の可処分所得は給与所得の伸びに支えられ、前年比+1.4%と9四半期ぶりの高い伸び。個人消費支出も同+1.2%へ加速した



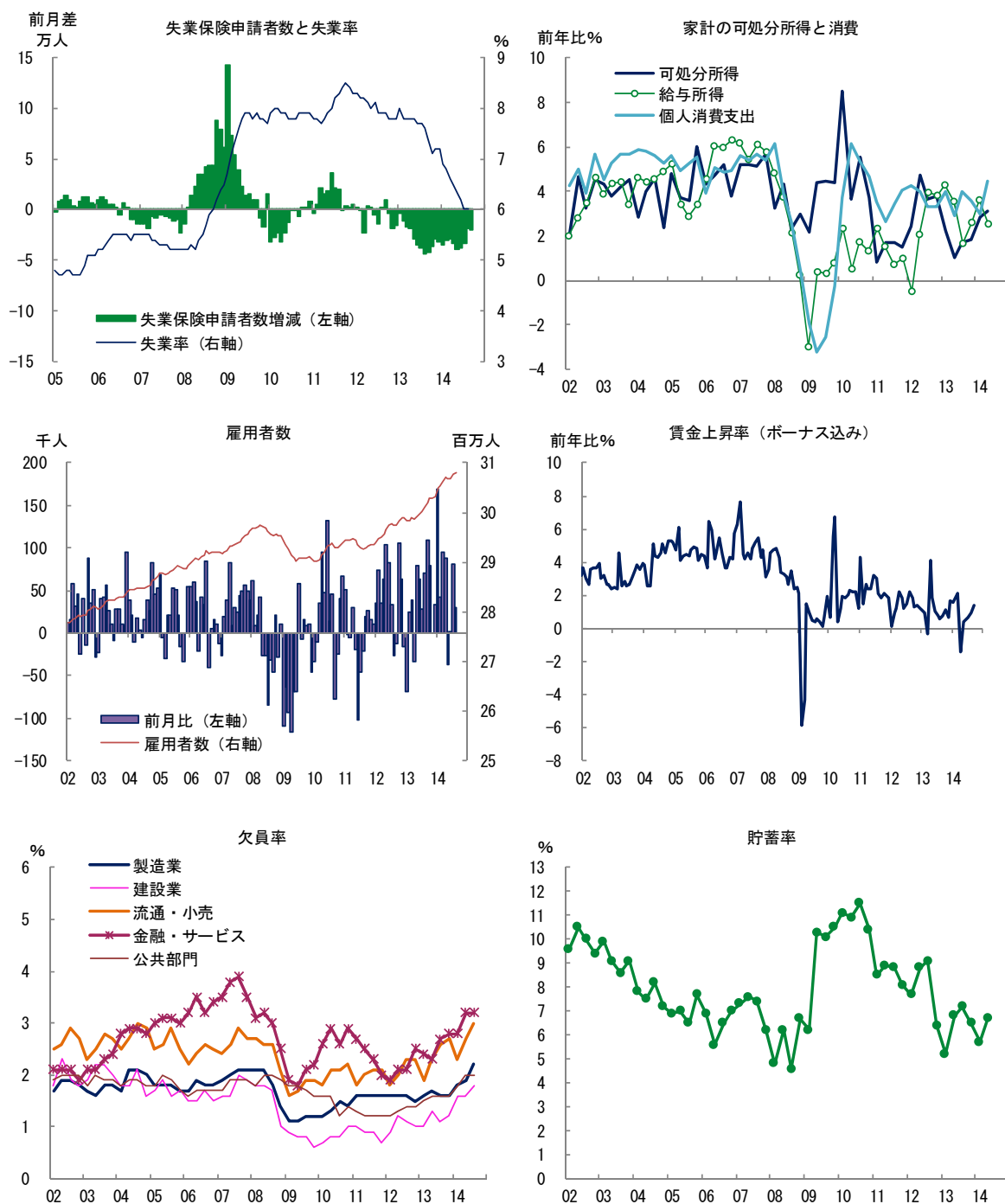
注：欠員率 (Job Vacancy Rate) =  $\text{Number of job vacancies} / (\text{Number of occupied posts} + \text{Number of job vacancies}) \times 100$

出所：Eurostat、Haver Analytics、ECB データより大和総研作成



## 英国 雇用・所得

- 7-9月の失業率は、6-8月に引き続き6.0%。失業保険申請者数は10月まで減少傾向にあるため、遠からずリーマン・ショック前の5%台の失業率を回復すると見込まれる
- 8月の雇用者数は前月比3万人増の308万人
- 7-9月の賃金上昇率は前年比+1.4%と低水準ながら加速傾向がみられる



注：欠員率 (Job Vacancy Rate) =  $\text{Number of job vacancies} / (\text{Number of occupied posts} + \text{Number of job vacancies}) \times 100$

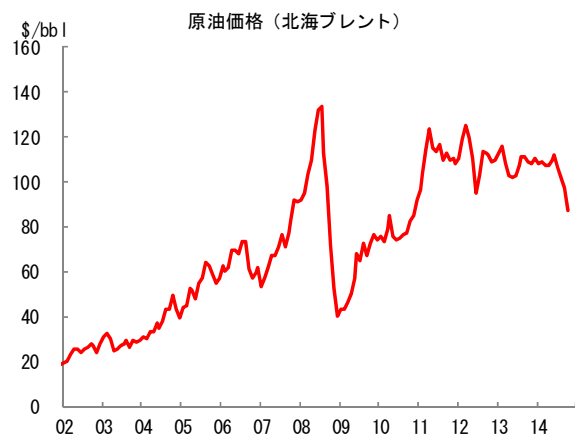
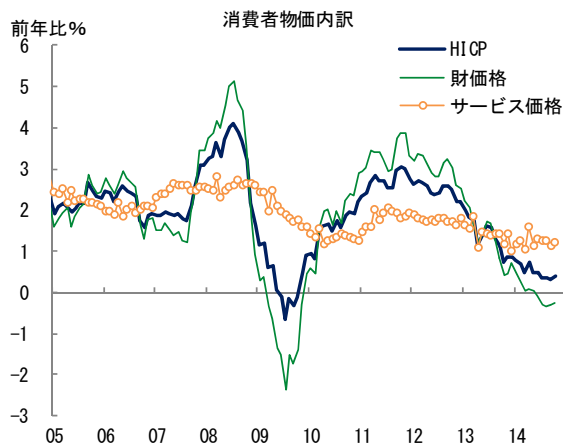
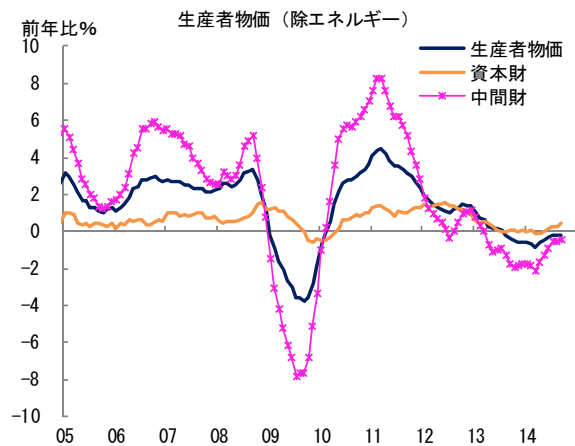
出所：Eurostat、Haver Analytics、英国統計局データより大和総研作成

## ユーロ圏 物価

- 10月の消費者物価(HICP)上昇率は前年比+0.4%と9月の同+0.3%から若干上昇したが、コア物価上昇率は同+0.8%から同+0.7%へ低下した
- 9月の生産者物価上昇率は前年比-0.2%と14か月連続で前年割れ
- 10月の原油価格(北海ブレント)は大幅続落で1バレル当たり90ドルを割り込んだ。また、ユーロの名目実効為替レートは10月まで7か月連続で前月比下落している



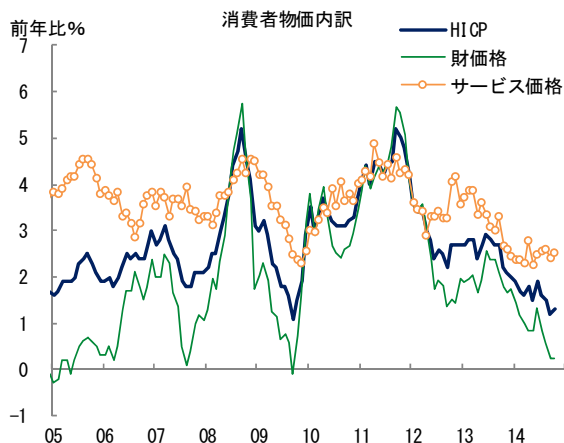
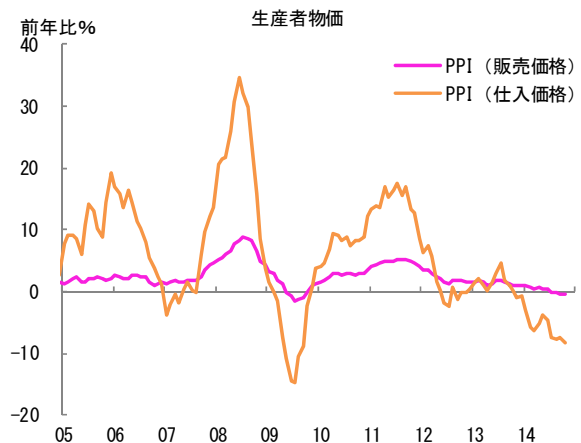
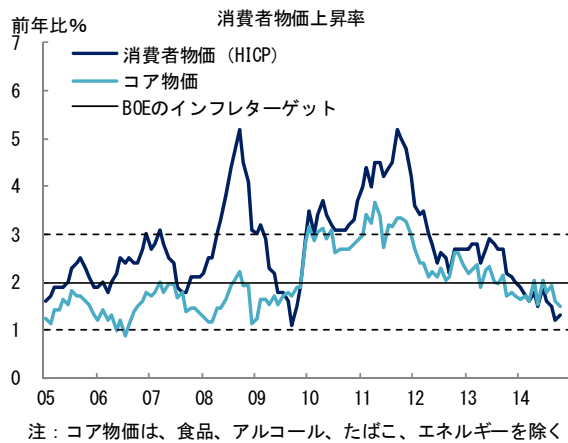
注：コア物価は、食品、アルコール、たばこ、エネルギーを除く



出所：Eurostat、ECB、Haver Analytics データより大和総研作成

## 英国 物価

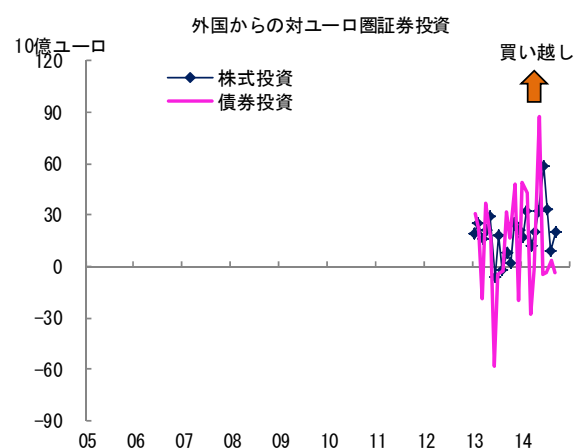
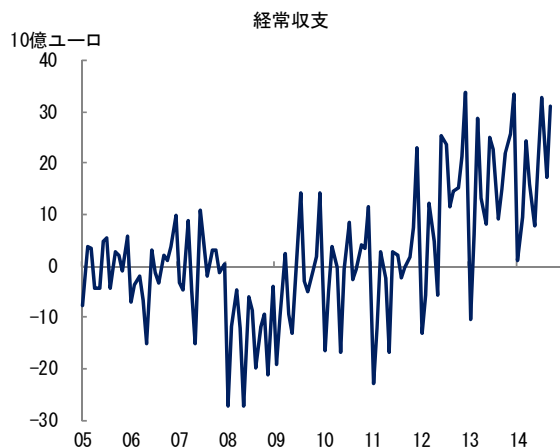
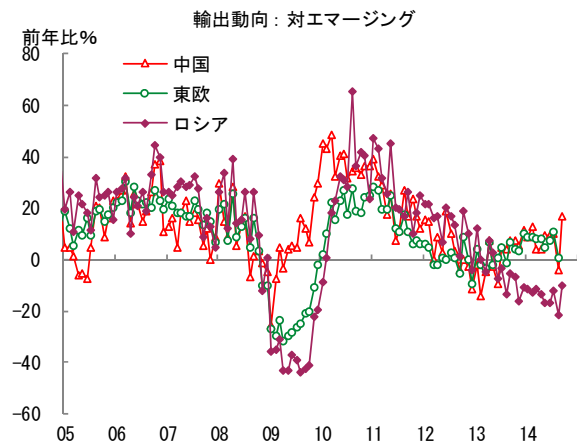
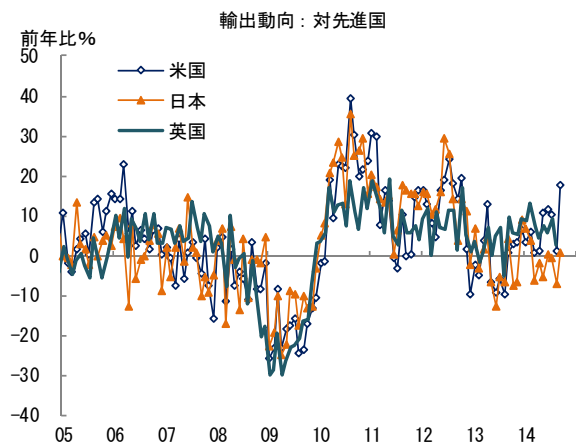
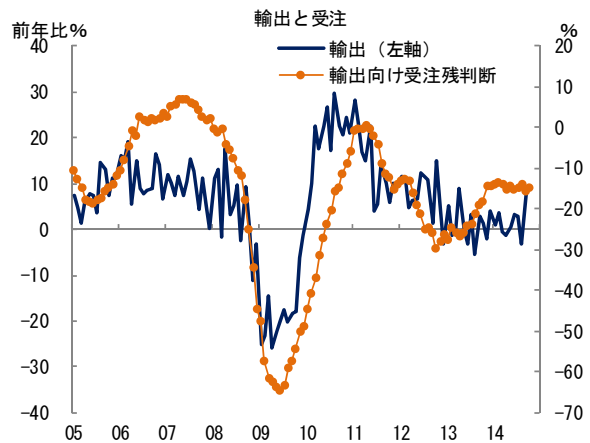
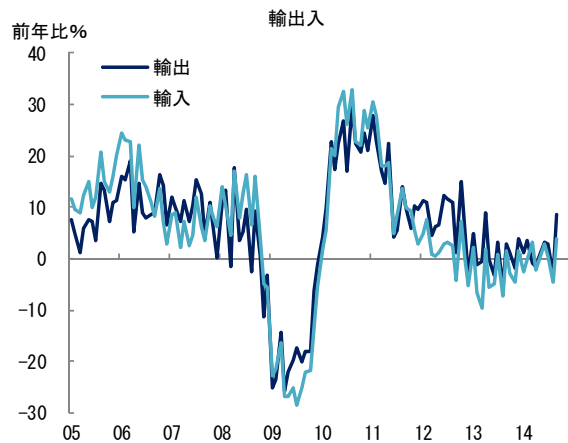
- 10月の消費者物価（HICP）上昇率は前年比+1.3%と9月の同+1.2%からは小幅反発
- 10月の生産者物価上昇率は、仕入価格は前年比-8.4%と下落幅が拡大。販売価格も前年比-0.5%と4か月連続で前年割れ
- ポンドの名目実効為替レートは利上げ期待が後退した8月以降、3か月連続で前月比下落



出所：Eurostat、英国統計局、Haver Analytics データより大和総研作成

## ユーロ圏 国際収支

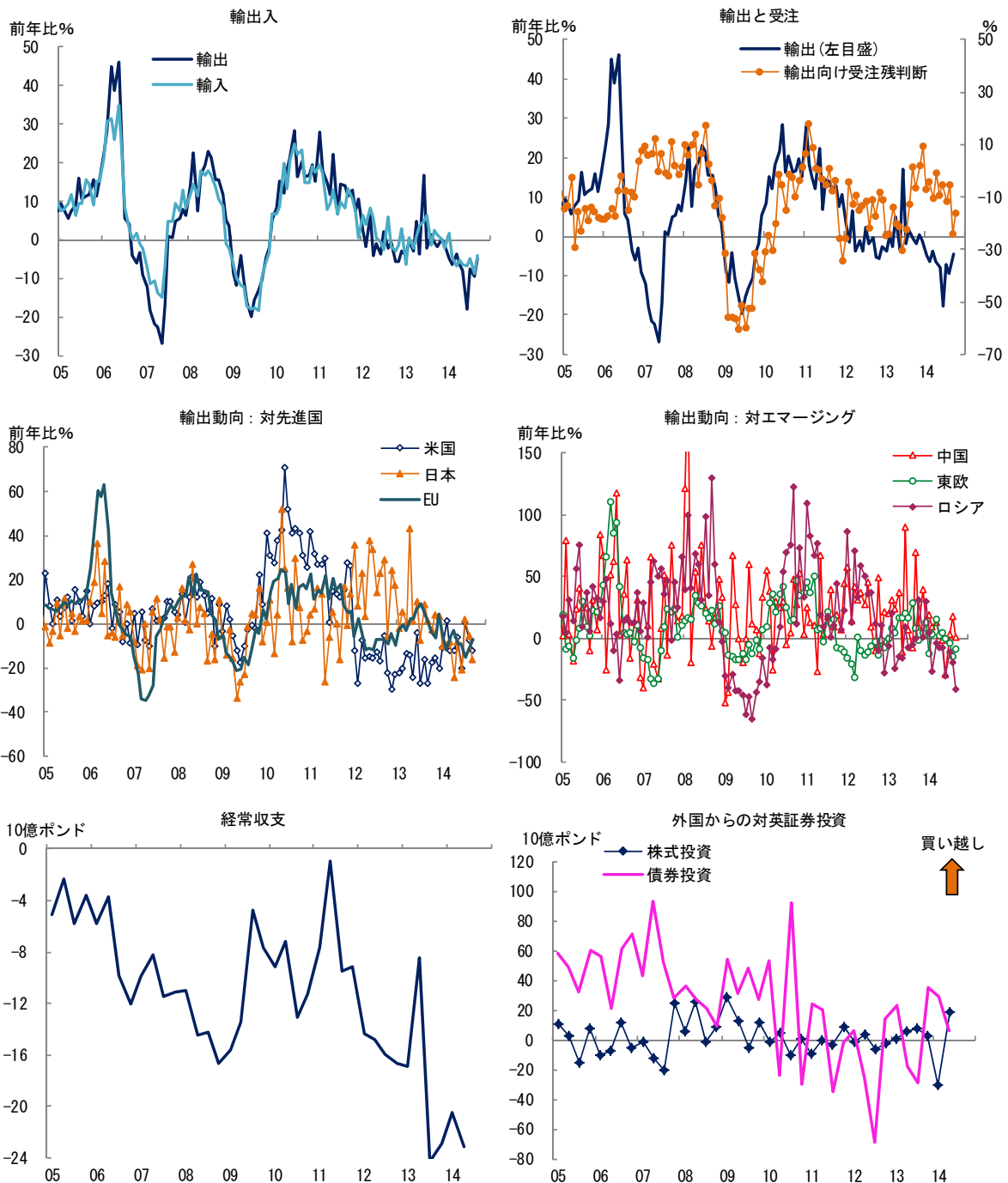
- 9月の輸出は前年比+8.5%、輸入は同+3.9%とそろって大幅反発
- 国別輸出動向をみると、米国、中国向けの輸出が大きく伸びたほか、日本向けも前年比マイナスからプラスに転じた
- 9月の経常収支は310億ユーロの黒字と黒字幅が改めて拡大。なお、証券投資収支の内訳は、統計方法の変更に伴う改定作業中で2012年以前のデータを取得できず



出所：Eurostat、ECB、Haver Analytics データより大和総研作成

## 英国 国際収支

- 9月の輸出は前年比-4.7%、輸入は同-4.2%とそろって前年割れ。輸出は8月の同-9.5%と比較してマイナス幅は縮小したものの、これで10か月連続の前年割れである
- 国別輸出動向をみると、中国向けの輸出は辛うじて拡大しているが、EU、米国、日本、ロシア向けは不振
- 10月の輸出向け受注残判断は急速に悪化した9月からは小幅改善



出所：Eurostat、Haver Analytics、英国統計局データより大和総研作成